

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

2025 年 6 月 10 日	
所属部局・学年	野生動物研究センター・M1
氏 名	後藤優佳

1. 派遣国・場所 (○○国、○○地域) 京都大学野生動物研究センター幸島観察所および都井岬
2. 研究課題名 (○○の調査、および○○での実験) 野生動物・行動生態野外実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで) 2025 年 5 月 19 日 ~ 2025 年 5 月 25 日 (7 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (○○大学○○研究所、○○博士／○○動物園、キュレーター、○○氏) 京都大学野生動物研究センター 杉浦秀樹准教授、幸島観察所 技術職員 鈴木崇文氏
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由) 写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くて結構です。
今回の渡航では、野生動物・行動生態野外実習として、宮崎県幸島でのフィールド調査体験および、ニホンザルの群れの行動観察と、宮崎県都井岬での御崎馬の行動観察を行った。
◆ スケジュール 5/19 幸島観察所に到着、買い出し 5/20 都井岬でウマを観察 5/21 天候不良のため宮崎県総合博物館を訪問 5/22 幸島に到着、ニホンザル観察 5/23 ニホンザル観察、幸島観察所に帰還 5/24 発表準備、発表 5/25 片付け・清掃、青島視察、帰宅
◆ 宮崎県総合博物館訪問 宮崎県総合博物館は宮崎神宮の隣に位置し、自然史・歴史・民俗の3つの常設展示室を有する県立の総合博物館である。一階の自然史展示室には照葉樹林や川・海・湿原のエコシステムを大型ジオラマや剥製、模型でリアルに再現しており、普段関わることのない地中の微生物の展示も興味深かった。また、特に印象に残ったのは民俗展示室で、非常にリアルな昭和時代の典型的な家屋が展示され、実際に中に入ってみて回ることができた。展示されていた道具などは使ったことがないが、不思議と懐かしく感じた。
◆ 都井岬の観察 都井岬には野生化したウマが生息しており、現在は100頭ほどが確認されている。ウマは哺乳類の中では珍しく、相互にグルーミング(毛づくろい)を行うことが知られているが、今回の調査でもその様子を観察することができた。 また、複数の個体が同じ場所に排便する「集団排泄」のような行動も見られ、非常に興味深く感じた。加えて、馬糞の上に生えることで知られるマグソタケも多く観察された。 個人的に特に印象的だったのは、森の中に生息している個体がいたことだ。通常、ウマは通常1~2頭のオスが複数のメスを率いるハーレム型のユニットを形成し、草原などの開けた場所に生息するのが一般的である。そのため、森林という閉ざされた環境に単独で生息する個体の存在は、彼らの本来の生態とは異なり、どのような経緯でそのような環境に適応したのか非常に興味深いと感じた。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



写真1 森の中を歩くウマ

◆ 幸島ニホンザルの観察

今回は、宮崎県の幸島で最もよく見られる「Main群」と呼ばれるニホンザルの群れを観察した。Main群はオス19頭、メス33頭で構成されており、技術補佐員の鈴木さんによって餌付けされていた。そのおかげで、比較的近い距離からサルたちの自然な行動を継続的に観察することができた。

ニホンザルは日常的にグルーミングを頻繁に行う。グルーミングは毛を清潔に保つという衛生的な役割だけでなく、個体同士の社会的なつながりを強める重要なコミュニケーション手段でもあるとされている。私はこの点に着目し、「グルーミングと個体の順位に関連があるのか」という問いを立てて観察に臨んだ。

具体的には、グルーミングの授受関係から社会ネットワークを構築し、各個体の社会性指標を算出した上で、それらの指標と順位との関連をスピアマンの相関検定によって調べた。観察期間が短かったため、十分なデータを集めることはできなかったが、今回の観察では、社会性指標と順位に有意な相関は見られなかった。

しかし、短い期間ではあったが、自分で研究テーマを考え、データを取り、解析し、結果を発表するという一連の流れを体験することができたのは貴重な経験だった。仮説を立てて実際に検証する面白さや、フィールドでのデータ収集の難しさを改めて実感した。今回得た経験を今後の研究に活かしていきたい。



写真2 グルーミング中のニホンザル



写真3 生まれたばかりの赤子を抱き抱える母親

※この実習報告書は提出前に担当教員（引率教員がいる実習は引率教員が、いない場合は指導教員）のチェックを受けてください。

6. その他（特記事項など）

実習中は、杉浦秀樹准教授、鈴木崇文氏、前田玉青氏（総合研究大学院大学特別研究員）にご尽力いただき、充実した日々を過ごせた。重ねて深く感謝申し上げます。